

二〇二三年度

静岡英和女学院中学校・高等学校 入学式

桔梗とマリーゴールド

本日は桜吹雪を流すような雨となりましたが、それはまた新緑を潤す恵みの雨でもあります。入学された皆さんはまさに英和女学院に芽吹いたばかりの新緑です。これからの皆さんの成長を心よりお祈りします。入学おめでとうございませう。また今日の日を迎えられたご家族皆様には心よりお祝い申し上げます。おめでとうございませう。

在校生、教職員一同、皆さんの入学を心待ちにしておりました。心より歓迎いたします。

英和女学院は「神様を愛し、隣人を自分のように愛する」という聖書の言葉を大切にしている学校です。皆さんの入学にあたり、それぞれの学年カラーからそれをお話

したいと思います。

まず中学一年生の学年カラーは紫です。紫と言えば『万葉集』で山上憶良が秋の七草の中で歌っている「桔梗」を思い出します。花の色のとおり「紫花」とも呼ばれています。

実は私は少し草花を育てているのですが、「桔梗」は中学一年生の教室の窓の下、一号館一階の校長室前の庭にあります。去年の夏に鮮やかな紫の花を咲かせました。ところが秋の訪れと共に枯れたようになりました。そこで調べるみると宿根草と言って根っこは地中で生きているとわかりました。しかし冬の寒さが厳しくなるにつれて、すっかり葉を落とし茶色に枯れた茎は見るにも忍び難く、無残で、とても痛ましく、心細い思いで春を待ちました。

そして年が明けて日が長くなり、三月の卒業式が過ぎた頃、気がつくとも枯れた茎の下から新しい緑の茎が出てきたではありませんか。恐る恐る枯れた茎を摘まむとすっと抜けました。確かに目に見えない地中で

根は生きていました。新しいいのちの誕生です。とても力強い姿をしています。

「神様を愛する」というのは「神様に感謝する」ということです。神様は目に見えない存在です。私たちは目に見えない存在を忘れます。それでも神様は私たちを見守り、どんなに凍えるような時にも目に見えない根っこのように私たちを支えます。だから神様を忘れないように、英和女学院は毎朝共に感謝の祈りを献げます。今、青々と芽吹き始めた桔梗を愛でながら、神様に選ばれ、祝福を受けた紫の皆さんの成長が浮かんできます。

そして高校一年生皆さんの学年カラーはオレンジです。オレンジがひとときわ鮮やかな花がマリーゴールドです。夏から長く咲き続ける花です。実は「コンパニオンプラント」としても有名です。コンパニオンとは「仲間」、プラントは「植物」ですね。

「共生する植物」という意味です。大根、カブ、キャベツなどの冬野菜は成長する過

程でとても柔らかく虫たちの大好物です。しかしマリーゴールドは虫を寄せつけない強い香りがあります。ですから野菜と一緒に植えると害虫から野菜を守ってくれるのです。農薬や殺虫剤を使わない、安全で安心な野菜に生長させてくれます。

「隣人を自分のように愛する」というのはまさにマリーゴールドと野菜の関係に似ています。私たちも一人ひとり全く違う者同士なのに、お互いに励まし合うことで共に成長します。皆さんは三年後にそれぞれ別の道へと進みますが、励まし合い共に学ぶ姿こそマリーゴールドです。オレンジの皆さんにぴったりの花です。どうぞ短い三年間ですが、見事にオレンジの花を咲かせ、成長していく姿を見せて下さい。

このように奇しくも今年の新入生、中学一年生の紫、高校一年生のオレンジの学年カラーは、英和女学院が大切にしてきた「神様を愛し、隣人を自分のように愛する」を象徴しています。そして、どうか体現して

下さい。具体的に実行して下さい。

学び成長するのはただ記録された教科書を頭で正しく記憶することではありません。学ぶというのは教えられたことを鵜呑みにする、課題をこなすことではありませんし、本来評価とは一律にできることでもありません。大切なのは学ぶ皆さん自身が実行し積み重ねていくことです。躓いたり、ぶつかったり、立ち止まったり、迷ったり、回り道して自分自身で、自分自身のことを確かめることほど尊いことはありません。どうかあなただけに与えられた道を歩み続けて下さい。

黄色も、青も、緑も、赤も、他のカラーの学年の後輩、先輩、在校生たちの誰もがその道を歩んでいます。何事もなく真っ直ぐに歩んでいける人は一人もいません。桔梗のように神様はあなたの根っことなって支えています。マリーゴールドのように仲間を通して神様も伴走者として共に走っています。どうか自信と誇りをもって、あなたの道を歩み始めて下さい。

二〇二三年四月七日

静岡英和女学院中学校・高等学校
校長 大橋 邦一